

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | 福澤諭吉伝 (1)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

福澤諭吉伝 (1)

諭吉は1835年1月10日、大阪にある中津藩の蔵屋敷に生まれました。蔵屋敷というのは、藩が年貢米として集めたお米を保管する倉庫のことです。父の百助は蔵屋敷で会計係をしている身分は低いが、学問も深く、立派な役人でした。そんな父親でしたが、諭吉が1歳の時に病で亡くなってしまいます。あとに残る母ひとり子ども5人、大阪を引き払い中津（大分県）に帰り、貧しいけれども助け合って暮らしていきます。

だんだん成長してくるにつれ、好奇心旺盛な諭吉には腑に落ちないことがいくつも出てきました。近所の子と遊ぶときでも、親の身分の高い子は「あなた」と呼ばれるのに、自分は「おまえ」と呼ばれます。諭吉はそういうことが我慢できませんでした。

ある日のこと、兄が座敷で書類を整理しているところを諭吉が通りました。ついうっかり諭吉はそこに散らかっていた紙を、足で踏んでしまいました。突然、めったに怒らない兄が大声で諭吉を叱りました。「おまえが踏んでしまった紙には、殿様の名が書いてある。それを踏むとは何事だ。罰が当たるぞ」諭吉は謝ったものの、殿様を踏んだわけではあるまいと、馬鹿馬鹿しく思いました。そしてまたある日のことです。諭吉はお稲荷さまの前を通りかかりました。その時、ふと諭吉は、殿様の名を書いた紙を踏んだりしたら罰が当たるぞ、といった兄の言葉を思い出します。罰が当たるということが本当にあるのかどうか試してみようと思ったのです。お稲荷さまの前を通る人たちはみなおがんでいきます。そこで諭吉は、人のいない時を見計らって、こっそり社の戸を開けてみました。中には石がひとつ置いてあるだけでした。諭吉は、その石を捨てて、道端にあった他の石ころをかわりに入れておきました。さすがにそのあと、罰が当たらないかと心配になりましたが、なにも起こりませんでした。諭吉は思ったことを口にするだけでなく、必ず実行しなければ気がすまないたち子どもでした。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

>> 一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.